

小学校教科書語彙リストに基づいた「教科書基礎語」の特徴と リスト活用のための付加情報

キーワード

外国人児童生徒, 教科学習, Web 版語彙リスト, 用例, 文法グループ, 意味グループ

山本裕子・鷺見幸美・川村よし子

1. 研究の目的

筆者らは、小・中学校教科書に用いられている語彙の調査を行い、それを通して各学年、各教科で用いられている語彙の基礎的資料を作成し、外国人児童生徒のための日本語支援環境を提供することを目指している。ここでの外国人児童とは、国籍を問わず日本語指導が必要な児童であり、外国に在住し日本語を継承語として学んでいる児童も含む。日常語彙に問題のない児童であっても、教科学習のためには必要となる語彙の学習が不可欠であると思われるが、これまでのところ何をどのような形で学べば効率的かについて、十分な吟味は行われてきていなかった。そのため、学習の基礎となる語彙を抽出し、より効率的な語彙学習のための支援環境を提供する必要があると考えた。

筆者らは、これまでに小学校教科書に用いられている語彙から成る「小学校教科書語彙リスト」を作成し、Web 上で公開している。そして、このリストから学習の基礎となる語彙として「教科書基礎語」の抽出を行った。しかし、実際の学習支援で活用するには、語のリストだけではなく、運用に結びつけられるさまざまな情報や、活用方法の提案が不可欠であろう。そこで、筆者らは主な利用者に指導者・支援者を想定し、「教科書基礎語」に付すべき学習支援に有用な情報について考え、3種類の情報を付して公開することとした。本稿では、小学校教科書語彙リストから抽出した「教科書基礎語」の概要および3種類の付加情報を示し、学習支援に結びつく有用な情報について改めて考えたい。

2. 先行研究：これまでの語彙リスト作成の試み

2-1 教科書全体の語彙に着目した研究

小学校の教科書を対象とした研究は、近年活発に行われるようになってきている。対象とする教科、範囲、視点は多岐にわたっており、特定の文型を対象に教科による使用の異なりに着目した研究や教科書の特定箇所の言語使用に着目した研究など様々なものがある（辻井・服部 2024, 宮部 2015, 2023 等）。ここでは本研究の目的に合わせて、教科書全体の語

彙を対象とした研究のうち、2014年以降に出版された比較的新しい教科書を対象にした研究について述べる。

田中（2020）は、2014年に出版された国語科の教科書（全学年37冊）の語彙を詳細に調査、分析したものである。国語科教科書37冊の掲載語について、頻度や提出順序等を分析し、503,907語をデータベース化して公開している。外国人児童の学習支援に資する基礎資料として、国内外で活用されており（田中他、2021参照），貴重な示唆を与えるものである。ただし、対象教科は国語科に限られている。

河内（2020）は、国語教科書の語彙とそれ以外の教科、算数・理科・社会の教科書それぞれ1冊ずつを対象として、語彙の比較を行っている。河内（2020）の研究は、国語科の学習指導が、国語科内にとどまらず学校生活、他の教科の学習にも役立つように、他教科の学習場面で必要な語彙を把握することを目標としており、小学校での学習に資するようにという立場は本研究と同様である。ただし、河内（2020）では学年の違いは考慮されていない。

このようにさまざまな研究が進められているものの、教科書の出版年、対象とする教科や冊数といった分析対象だけでなく、研究方法もさまざま、特に語の認定のしかたが研究によって異なるため、結果を単純に比較対照することが難しいのが現状である。

2-2 基礎語、重要語を抽出した研究

次に、対象とする資料から語を抽出し、さらにその中の一部を「基礎的な語」、「より重要な語」として選定する試みをしている研究について述べる。

工藤（1999）は、日本語学習者（全般）向けの基礎語彙や子ども用辞典等6種の資料から「児童生徒に対する日本語教育のための基礎語彙」を選定したものである。対象を教科書だけに限っておらず、選定された「基礎語彙」も教科学習を念頭においたものではない。

バトラー（2011）は、「学習語」として、高校までの学習を想定して旧日本語能力試験出題基準（以下JLPT）の3、4級の語を除外し、1,204語を教科書から抽出した。高校までという長期の学習を見据えており、貴重な資料であるが、小学校での学習を考えた場合は、いわゆる「やさしい」語も不可欠である。対象とする児童が、「今、何を、どこまで」学ぶべきかという基本的な情報は学習支援にとって必要なはずである。

また、河内（2022）は、国語・社会・理科・算数の小学校教科書（2015年度使用のもの）と1年分の小学生新聞、児童図書30冊から語を抽出し、語の重なりや頻度から、小学生が学習すべき語彙を明らかにすることを目的に、「基礎語」と「学習語」の選定を行っている。

「基礎語」は教科書、新聞、児童図書のすべてで用いられている語で、名詞2,092語をはじめとする3,814語である。さらに「基礎語」の中で調査対象とした教科のすべての教科書に見られる語は「重要基礎語」とされている。河内（2022）において「基礎語」「重要基礎語」は、「基本的な語彙の集まり」で「他教科の学びにも、実社会（小学生新聞・児童図書）の言語生活にも欠かせない基幹語彙（p.45）」である。一方、「学習語（476語）」は新聞と児童図書には見られるが、教科書には見られない語で、学校の外側にある語である。そしてこの「学習語」の中から、さらに国立国語研究所（2004）『分類語彙表』や、阪本（1958）『教

育基本語彙』等での分類を手がかりに頻度も考慮して厳選した 157 語が「重要学習語」とされている。河内（2022）は教科書だけでなく、外国人児童の接する可能性の高い資料も含めて調査を行っており、より広い視点で「学習」を捉えたものとして非常に意義深い。基礎語、重要語等として語を選定する際、どのような語をどのような目的で括るかについて、慎重に検討すべきであることが改めて認識できる。

2-3 語彙リストに付加する情報

このように、「外国人児童にとって必要な語彙」を抽出、選定するという目的の下、様々な研究があるが、そこでの議論は「どのように語彙を抽出するか、選定するか」が中心となっており、語彙リストとして提示する際に、どのような情報を付すかに関しては議論が十分になされているとは言えない。

工藤（1999）が示しているリストには、品詞と語種、分類語彙表に基づく意味分類コード（「こそあど」「事情」等）が付されている。バトラー（2011）では、語の重要度による分類がなされているが、それぞれの語には文法や意味に関する情報はない。実際にデータベースとして公開されている田中（2020）では品詞別の使用数、頻度の高い語を、学年や教科書別にも示すなど豊富な資料を備えている。本文そのものも参照できるようになっており、本文中の表記、読み、原型、品詞などの情報とともに提示され、フィルター機能で教科書のどの部分にどのような語（表現）がどのくらい出ているかがわかる。また、「意味（漢字など）」として、話し言葉（例「それじゃあ」）や、方言（例「だども」）など一部の語には、より一般的な表現（上の例では「それでは」と「だけども」）や簡単な説明が必要に応じて付されているが、工藤（1999）の意味分類コードのような概念に関わる情報ではない。

田中（2020）のデータベース以外は直接ユーザーに向けたものではないため、同列に論じるのは適切ではないが、これらにおいては、文法に関する情報として「品詞・語種」があり、意味に関する情報として「意味分類コード」があることになる。実際にその語がどのように使われているかを知るために、文法、意味の両面に関して、文の中での使われ方がわかる情報と、語と語のつながりがわかる情報が必要になる。また、外国人児童のための語彙リストは、「ことばを広げる」ことにつながるものであることが望ましく、短期的に、教科書の場だけで役立つ情報ではなく、長期的な視点から子どもに合わせた支援を考えられる情報を供する必要があるだろう。

2-4 教科書語彙リスト作成に向けての基本方針

これまでの教科書語彙に関する研究の検討を踏まえ、本研究では、教科書語彙リストの作成方針を以下のように定めることとした。

1. 小学校で学習する全学年の主要教科（生活、社会、理科、算数、国語）の教科書を対象とすること
2. BCCWJ に収録された教科書データや教科書以外のデータと必要に応じて比較できるよう比較可能な形（MeCab-UniDic の短単位）で語を抽出すること

3. その上で、実際に教科書に用いられている現実的な形（複合語）も収集すること
4. 学年や教科、語彙レベルによる制限を設けず、総体から、いわゆるやさしい語も含むすべての語を抽出すること
5. 学習指導・支援の目的に合わせてリストが活用しやすいよう、使用されている教科や学年だけでなく、「ことばを広げる」ことにつながる様々な情報を加えたリストを作成すること

以下では、上記の方針に従って作成した小学校教科書語彙リストとそのリストをもとに選定した教科書基礎語について述べ、その後、本リストの特徴となる教科書基礎語に付加した情報について述べる。

3. 小学校教科書語彙リスト作成と教科書基礎語の抽出作業

3-1 小学校教科書語彙リストの作成

ここでは、教科書基礎語抽出の前段階である小学校教科書語彙リスト作成作業の概略を述べる（詳細は山本・川村・鷺見、2023；山本・川村・鷺見、2024a等を参照）。

本研究では、愛知県尾張地方で用いられている小学校の教科書の主要5教科（生活・社会・理科・算数・国語）の全学年の教科書について教科書本文をデータ化し、単語および複合語を抽出した。ただし、国語については教科書によって収録される文学作品が異なるため、作品を扱っている章は、作品の「本文」にあたる部分を語彙収集の対象から除外し、学習内容の説明や学習課題に関する部分のみを対象とした。また、ここでの単語とは、2-3の方針2で述べたように「委員」「橋」「相～」のようなMeCab-UniDicを用いた形態素解析（以下、形態素解析とする）で切り出されるもっとも小さい単位である「短単位」のことを指している。そして、複合語とは、「委員/会」「委員/会/活動」「歩道/橋」「相/次ぐ」のように複数の短単位から成り、一つの語として用いられているものを指す。先に述べたように、教科書以外での単語使用との比較も想定して、BCCWJ等の大規模コーパスで採用されている短単位という基準を用いることにしたが、実際の教科書での使用実態を見るには複合語を見ていくことも不可欠である。教科書で用いられる複合語には、上の例の「委員会活動」のように、一般の辞書の見出し語にはなっていないようなものも多く含まれている。そのため両方の基準で網羅的に語を拾うこととし、その結果得られた語を、学年、教科ごとにリスト化して基礎データを作成した。基礎データの概要を表1、2に示す。まず、表1に全体の語数、表2に教科ごとの語数を示す⁽¹⁾。

表1 小学校教科書語彙リスト全体の語数

種類	語数		異なり語数	延べ語数
	全体	うち1回のみ使用		
単語（短単位 MeCab）	11,807		3,647（30.9%）	397,015

複合語	7,210	3,609 (50.1%)	48,140
-----	-------	---------------	--------

表2 小学校教科書語彙リストの教科ごとの語数

教科	対象学年	異なり語数	延べ語数
国語	6学年分	7,076	85,423
算数	6学年分	3,438	98,949
理科	4学年分	4,852	106,474
社会	4学年分	12,370	143,327
生活	2学年分	1,720	10,982

表1, 2に示したように教科書語彙は膨大な量に上る。また1回しか用いられない語も多く、単語（短単位）では30%，複合語では50%以上である。そこで、必要な情報を容易に取り出せるよう、漢字・文字列・単語・読み・教科・学年・頻度等、様々な条件での検索ができる機能を装備して⁽²⁾、2024年3月よりWeb上で「小学校教科書語彙リスト」として、無償公開を開始した(<https://shogakugoi.nihongo-de.com>)。また、リスト全体だけでなく、検索した結果もダウンロードできるようにした。このように、利用者が目的に応じて必要な情報のみのリストを作成・活用することも可能な形を整えた。

3-2 教科書基礎語の抽出

次に、「小学校教科書語彙リスト」から、それぞれの教科および学年でどのように使われているかという情報をもとに、より重要度が高いと考えられる語を絞り込む作業を行った。

より多くの教科や学年で用いられている語はより重要度が高いと考え、出現教科数、学年、頻度をもとに「教科書基礎語」（総数2,076語）を抽出した（山本・川村・鷺見、2024b参照）。そして、抽出した「教科書基礎語」を、用いられる教科・学年を勘案して、さらに以下の①～④の4種類にした。より広く教科を横断して用いられている語から順に、①学習基礎語1、②学習基礎語2とし、教科横断的ではなく特定の教科で複数学年にわたって用いられている語を③教科基礎語、低学年で頻度の高い語を④生活基礎語とした。以下に抽出基準を述べる。

- ① 学習基礎語1：5教科のすべての科目で、最低1回は用いられている語。
- ② 学習基礎語2：5教科のうち、いずれか4教科で、最低1回は用いられている語および複数教科で③の教科基礎語となる語。
- ③ 教科基礎語：教科ごとに3～6年のすべての学年の教科書で用いられている語。ただし、複数教科でこの条件に該当する語は、その教科の基礎語とは言えないため、②の学習基礎語2に含める。
- ④ 生活基礎語：「生活」の1, 2年の両方で用いられている語および1, 2年の教科書の

3教科すべてで用いられている語のうち、①、②に該当しない語。

以上の基準で抽出した①～④の語数を表3にまとめて示す。なお、抽出にあたっては、固有名詞は国名に限ることとした。また、抽出結果に複合語とそれのもとになる単語(短単位)がどちらも含まれ、かつ同頻度である場合、その語はすべて複合語として用いられることを意味するため、基礎語には複合語のみを残し、単語(短単位)は除外することとした⁽³⁾。

表3 教科書基礎語の種類ごとの語数(異なり語数に占める割合)

種類	異なり語数			延べ語数
	語数	うち短単位語数	うち複合語数	
① 学習基礎語1	566	529 (93.5%)	37	223,248
② 学習基礎語2	836	748 (89.5%)	88	83,766
③ 教科基礎語	545	421 (77.2%)	124	35,481
国語	163	131	32	7,318
算数	106	66	40	11,288
理科	111	79	32	7,559
社会	165	144	21	9,316
④ 生活基礎語	129	95 (73.6%)	34	2,000
①～④合計	2,076	1,793	283	344,495

教科書基礎語は、異なり語数の合計が2,076語であり、教科書本文に出てきた異なり語数の総和(19,017語)の10.9%に過ぎない。ところが、延べ語数では全体の8割ほどをカバーしている。つまり、教科書基礎語は、教科書で繰り返し使われる語であり、学習に役立つ重要な語であると言ってよいだろう⁽⁴⁾。また、学習基礎語1、学習基礎語2は、短単位の語がどちらも異なり語数の90%前後を占めている。以下では、教科書基礎語がどのような語であるかについて詳しく述べていく。

4. 教科書基礎語の特徴

ここでは、①～④について特徴を述べる。はじめに、教科書基礎語全体および①～④それぞれの品詞ごとの割合を表4に示す。なお、品詞名は、形態素解析の結果をそのまま用いると一般的な用語と異なるものもあり、利用者にはわかりにくい。そこで、日本語学習においてより一般的な用語である、名詞・動詞・副詞・い形容詞・な形容詞・感動詞・連体詞・接続詞・接頭辞・接尾辞等を用いることとした。

表4 教科書基礎語の品詞ごとの数 (%)

品詞 ⁽⁵⁾	教科書基礎語全体	学習基礎語 1	学習基礎語 2	教科基礎語	生活基礎語
名詞*	1,293(62.3)	257(45.4)	551(65.9)	380(69.7)	95(73.6)
動詞	589(28.4)	184(32.5)	230(27.5)	145(26.6)	30(23.3)
副詞	141(6.8)	54(9.5)	65(7.8)	12(2.2)	10(7.8)
接尾辞	104(5.0)	33(5.8)	39(4.7)	29(5.3)	3(2.3)
い形容詞	64(3.1)	28(4.9)	23(2.8)	13(2.4)	0
な形容詞	72(3.5)	25(4.4)	25(3.0)	19(3.5)	3(2.3)
助数詞	63(3.0)	23(4.1)	24(2.9)	15(2.8)	1(0.8)
複合辞	60(2.9)	17(3.0)	22(2.6)	21(3.9)	0
接頭辞	15(0.7)	2(0.4)	9(1.1)	4(0.1)	0
接続詞	6(0.3)	2(0.4)	4(0.5)	0	0
その他	61(2.9)	34(6.0)	9(1.1)	5(0.9)	9(7.0)

*名詞は固有名詞（国名）を含む

教科書語彙全体では、名詞が圧倒的に多く（82.7%），次に動詞（8.2%），そしてそれ以外の品詞が続いていた（山本・川村・鷺見 2024b）。表4からわかるように教科書基礎語も全体的な傾向は同様であるが，教科書基礎語では名詞が 62.3%，動詞が 28.4%と動詞の割合が相対的に高くなり，教科書語彙全体の割合とは大きく異なっている。さらに，①学習基礎語 1 は動詞の割合がより高く，③教科基礎語は副詞が相対的に少ない等，それぞれ異なった傾向があることがわかる。これには，基礎語を抽出した基準が影響していると考えられる。名詞のほうが異なり語彙数が多くなり，動詞は名詞に比べれば異なりが少ないものの，その分教科をまたいで現れているため学習基礎語に多く含まれる。また，教科基礎語に副詞が少ないのも，基礎語抽出の基準が大きく影響していると考えられる。学習基礎語に含まれる副詞（詳細は 5-2-1-1 で述べるが，副詞としても用いられる名詞も含む）は，時を表すもの（例：時，毎日，今日，もうなど）や，順序に関わるもの（例：はじめに，まず，最初，途中など）や場所に関わるもの（例：ところ，中，前，間など）など，教科を問わず用いられる語である。逆に言えば，学習基礎語の中に，すでに学習で必要な副詞が取り出せているとも言えよう。

また，教科書基礎語は，山本・川村・鷺見（2024b）で示したように，N4，N5 レベルが 715 語（44.0%）と，いわゆる「やさしい語」が多いが，一方で，N2，N3 レベルも 442 語（33.4%），N1 レベルも 59 語（4.5%）あり，やさしい語以外の語も多く含まれている。特に級外語彙として，「インターネット，メール」といった新しいカタカナ語や，「防災」「震災」といった現代の日本社会にとって重要性の高い語，「取り組み，考え方，置き換える，見せ合う」等の学習活動に関わる複合語が含まれていた。

以下では①～④について順に例を挙げ、さらに詳しく特徴を述べる。

- ① 学習基礎語 1 (566 語) の例：頻度上位 50 語、下線 は複合語、 は名詞のうち副詞としても用いられる語

動詞：する、いる、ある、見る、なる、調べる、考える、書く、使う、できる、作る、
言う、行く、分かる、思う、読む、来る、
名詞：こと、時、もの、年、数、人、水、市、言葉、県、中、ところ、自分、ため、
様子、長さ
い形容詞：良い、大きい、長い
な形容詞：～よう（な）
接頭辞：御～
接尾辞：～さ、～方、～さん、～たち、～つ、
その他：どの、何、その、～など、～について、どう、～のように

学習基礎語 1 は総じて頻度が高く、頻度 30 以上の語が 515 語と約 91% を占めていた。頻度上位 50 語を見ると、複合語ではなく汎用性の高い、和語が並んでいる。また、「調べる、考える、書く、分かる、言葉、～について」といった学習を想起させる語も多く含まれている。全体の 566 語のうち、複合語は 37 語のみであり、接辞や疑問詞を含むものが目立つ。「長さ」「大きさ」「重さ」「速さ」といった形容詞由来の名詞や、「何回」「何度」「何本」など疑問のことば、「使い方」「書き方」などは、いずれも学習との関わりの深い語だと言えるであろう。小学校教科書において、い形容詞は、「大きい」「重い」「速い」のような終止形での使用よりも「大きさ」「重さ」「速さ」といった「～さ」を伴う形での使用が多い語があるということを山本・川村・鷺見（2024b）で指摘したが、学習基礎語 1 からもその様子が窺える。

さらに、表 4 に示したように、学習基礎語 1 には動詞が多く含まれ、名詞は相対的に少ないことも特徴的である。また、副詞は頻度上位 50 語には「どう」「どのように」のほか、副詞としても用いられる名詞を含め 5 語のみだったが、学習基礎語 1 の全体には多く（54 語 9.5%）含まれていた。こうした点も特徴と言えるだろう。

- ② 学習基礎語 2 (836 語) の例：頻度上位 50 語、下線は複合語、□はする動詞可能な語

動詞：学ぶ、求める、行う
名詞：センチメートル、メートル、日本、倍、問題、式、計算、図、量、関係、めあて、地域、説明、結果、万、情報、右、予想、川、例、まとめ、働き、変化、グラフ、暮らし、高さ、植物、文、温度、世界、グラム、国、多く、キロメートル、自動、生産、内容、位置
助数詞：～個、～円、～的

接頭辞：約～，
接尾辞：～形，～人，～ずつ
その他：どのような

学習基礎語2は、学習基礎語1と比べると名詞の割合が高い。「する動詞」として用いられる漢語名詞や、単位を表す語も多く含まれている。単位は算数だけでなく、社会、理科でも頻出するため、学習一般にとって重要な語であることがわかる。また、副詞は上位50語には含まれていないが、全体には65語（7.8%）含まれており、「ゆっくり、わくわく、ぴったり、どきどき、じっくり」などオノマトペも多い。これも学習基礎語2の特徴と言えるだろう。

③ 教科基礎語（545語）の例：頻度上位語。下線は複合語、□はする動詞可能な語

社会基礎語 例：人々、工場、学習問題、盛ん（な）、主な、産業、戦争、～による
算数基礎語 例：三角、万、辺、位、分数、直線、グラム、少数、方形、角、三角形
理科基礎語 例：空気、実験、体積、液、気温、～水、金属、変わり方、磁石
国語基礎語 例：文章、人物、漢字、表現、登場、組み立て、語、筆者、登場人物

それぞれの教科の学習内容が想起できるような名詞が多い。表4に示したように、教科基礎語には副詞が少なく頻度上位語には含まれていないが、全体では12語含まれる。そのうち5語が理科基礎語で、「やがて、絶対、順序よく、むやみに、あらかじめ」と手順に関わる語であった。その他は、「一人ひとり、もともと、日頃（社会）」「だんだん、ちょっと、無事（国語）」で、算数基礎語には副詞はない。

④ 生活基礎語（130語）の例：頻度上位30語。下線は複合語、□はする動詞可能な語

動詞：がんばる、ござる、お願いする、捕まえる、飛ばす
名詞：重り、飴、蝶、うがい、探検、モンシロチョウ、挨拶、ダンゴムシ、家の人、枝、アゲハ、お互い、セロハンテープ、葉っぱ、町の人、タンポポ、紙コップ、～路、おすすめ、水（曜日）、飾り、校長先生
副詞：そつと
助数詞：～冊
感動詞：ありがとう

生活基礎語は、特に低学年における重要な語句と考えられる。生活基礎語の特徴として、「蝶、モンシロチョウ、ダンゴムシ、タンポポ」といった身近な動植物と「捕まえる、葉っぱ」などその観察に関わる語が含まれていること、また、「家の」人」「町の人」「校長先生」といった周囲の人々を表す語が上位にあることが挙げられる。「家の」人」「町の人」等は、一

一般的な辞書に記載されている語ではないが、学校生活では頻繁に使用され、子どもの生活に特有の表現の一つと考えられる。こうした語が抽出されている点も本リストの複合語の特徴の一つと言えるだろう。

5. 「教科書基礎語」に付加した情報

次に、本リストの重要な特徴とも言える教科書基礎語に付加した情報について述べる。すべての教科書基礎語には、学習支援に活用できる付加情報として、1) 用例、2) 文法、意味等の運用につなげるために有効だと考えられる情報（グループ）を付与した。また、こうした情報は簡便にアクセスできなければ、実際に活用することは難しい。そこで、Web 上で公開しているシステムにも教科書基礎語を選択して表示できる機能を搭載し、これらの付加情報も容易に表示できるようにした。以下、順に詳しく述べる。

5-1 用例

語の実際の使われ方を示すものとして、2,076語のすべての教科書基礎語に用例を付した。用例は、教科書に含まれる文の中から、代表的な使い方のものを選んだ。基本的に2教科以上の用例を示し、使い方が異なるものは、使い方ごとに例を示せるよう、複数の用例を収録することとした。

用例があることで教科ごとに使い方が異なることがわかる。家庭での使用言語によっては、日常的な用法には馴染みがなく、教科での頻度の高い用法に先に出会う子どももいると考えられる。例えば、「かける」の場合、1年生の生活科でも用いられる語ではあるが、頻度としては算数の「かけ算」での使用数が非常に多く、また「かけ算」は学習単元としても重要である。そのため、「電話をかける」「眼鏡をかける」といった日常的な用法よりも「かけ算」の「かける」という意味のほうが強く認識される場合もあるだろう。そこで、実際のWeb画面でも図1のように教科ごとに用例を示し、使い方が異なることが容易に確認できるようにした。

3108	掛ける	かける	動詞{他}	行為	こうい
用例	<p>【生活】 電話は番号を見ながら正しくかけよう。</p> <p>【社会】 あまおうは、たくさんの手間をかけて作られています。</p> <p>【理科】 土に水をかける。</p> <p>【算数】 3に4をかけると12になる。</p>				

図1 「かける」

支援者が、子どもにどのように情報を提示していくか検討する際に、頻度情報だけでなく、用例も有用な手がかりの一つとして考えることができる。そこで、Web上では、用例の収録されている語を「青字」で示し、用例の有無が画面上で、一目で確認できるようにした⁽⁶⁾。

図1の「掛ける」のように、「青字」になっている語をクリックすると、語の下にそれぞれの用例が表示されるようになっている。

5-2 グループ

次に、語彙学習の指導・支援を念頭に置いた各語の文法的役割と意味に関する情報について述べる。本リストでは、文法グループ、意味グループという形でグループ化を行った。このようにグループ化することで、「ことばを広げていく」指針となると考える。一つ一つの語をただ覚えるのではなく、「ことばを広げる」チャンスと捉え、その語と同じような使い方ができる語や、その語と使用場面が同じである語や意味的に関連している語にも目を向ける。さらに教科や学年の頻度情報も併せれば、より効果的に活用できる。

文法グループ、意味グループには、それぞれ下位グループがある。また、複数のグループに該当する語の場合には、複数のグループを併記している。これらは「文の中での語の使い方」のわかる文法グループ、「語同士のつながり」のわかる意味グループという語彙学習に有用な情報を独自の基準でグループ化したものであり、本研究の大きな特徴と言える。以下、文法グループ、意味グループの順に説明する。

5-2-1 文法グループ

文法グループは、品詞によるグループ化である。すでに述べたように、品詞名については一般的な用語を用いることとし、名詞・動詞・副詞・い形容詞・な形容詞・感動詞・連体詞・接続詞・接尾辞・接頭辞等に分けた。また、学習支援の観点から、名詞と動詞には独自の工夫を施した。以下、名詞と動詞で行った工夫について具体的に述べる。

5-2-1-1 名詞の工夫

複合名詞も含めた名詞について、他の品詞としても使われる場合にはその品詞を併記した。以下に併記のパターンを示す。

① 動詞の併記：動詞としても使われるもの

例) 移動（名詞/する動詞{自}{他}）, 心（名詞/する動詞{と}{自}{他}）

② 副詞可能の併記：単独あるいは修飾語句を伴って副詞としても用いられるもの

例) 時（名詞/副詞可能）：時を忘れて～（時＝名詞），大飢饉のとき（とき＝副詞）

③ な形容詞の併記：な形容詞としても用いられるもの

例) 自然（名詞/な形容詞）, 自由（名詞/な形容詞）

④ 接尾辞の併記：接尾辞としても用いられるもの（見出し語も併記）

例) 口/～口（名詞/接尾辞）

⑤ 接頭辞の併記：接頭辞としても用いられるもの（見出し語も併記）

例) スーパー/スーパー～（名詞/接頭辞）

⑥ 助数詞の併記：助数詞としても用いられるもの（見出し語も併記）

例) 台/～台（名詞/助数詞）

このように併記することによって、例えば、「①の場合であれば、「移動」という語が「移動が大変だ（移動=名詞）」「早く移動したほうがいい（移動=する動詞（自動詞））」「じゃまな車を移動しよう（移動=する動詞（他動詞））」のように使用できることがわかり、支援の際にもその情報を活用できる。

5-2-1-2 動詞の工夫

動詞については、文の中での使い方がわかるように、文を組み立てる上で重要な情報だと考えられる情報を入れた形でグループ化を行った。複合動詞、サ变动詞（以下「する動詞」）、慣用的な動詞句を含んだ動詞すべてについて、以下のような情報を示すことにした。

① 自他の区別：自動詞として用いられるか、他動詞として用いられるか、あるいは両用か。

例) 集まる（動詞{自}），打ち上げる（動詞{他}），休む（動詞{自}{他}）

② 発話動詞や思考動詞として用いられ、「～と」をとることがあるか。

例) 話す（動詞{と}{自}{他}），言う（動詞{と}{他}），気づく（動詞{と}{自}）

③ する動詞として使われる語がどのような形で使用できるか。

漢語名詞だけでなく、和語複合名詞や外来語名詞についても、する動詞としてどのような形で使えるかがわかるようにしている。

例) 手入れ（名詞/する動詞{他}），～等分（名詞/する動詞{他}）

　　インタビュー（名詞/する動詞{自}{他}）

④ 動詞としてしか使わない漢語かどうか。

動詞としてしか使わない漢語（「する動詞」と表記）か、名詞としてもする動詞としても使える漢語（「名詞/する動詞」と表記）かが区別できるようにしている。

例) 率先（する動詞{自}），挨拶（名詞/する動詞{自}）

複数の情報が当てはまる場合は、上に示した「休む」「話す」「インタビュー」等のように複数の情報を併記した。

実際の Web 上では図 2 のように文法グループの列で、併記されていることが一目でわかるようにした。図 2 は名詞で絞り込んでいるが、名詞が含まれれば検索結果として表示されるため、名詞の中に、「する動詞」や「接尾辞」としても使用できるものがあることもわかる。

なお、これらの併記している情報に関しては、教科書での使われ方のみで判断しているわけではない。例えば複数の品詞名を併記する場合、当該の品詞での使用が可能かどうかという観点から判断している。本研究は各学年・各教科の教科書 1 冊から語を抽出してい

るため、他の教科書での使い方や教科書外での使い方も想定しておく必要がある。河内（2022）が指摘しているように、重要な語であっても教科書に用いられていないものも多くあり、また教科書外の使用を学習者、支援者ともに頻繁に耳にする可能性も高い。用例は教科書から採取しているが、教科書外の用法についての情報もリストに付することで、学習の広がりを促すきっかけにもなりうるだろう。

小学校教科書語彙リスト			単語+読み		部分一致		検索	○選択解除						文法グループで絞り込み ×		
#	単語	読み	文法グループ	意味グループ	意味グループ(読み)	★基礎語★		1年 生活	2年 生活	3年 社会	4年 社会	5年 社会	6年 政国			
1007 <u>会</u>	いと	名詞	《日常生活》	《にじょうせいいかつ》	★学習基礎語2	4										
1015 <u>移動</u>	いどう	名詞/する動詞《自}(他)	移動	いどう	★学習基礎語2				2	7	2					
1045 <u>イヌ/犬</u>	いぬ	名詞	動物	どうぶつ	★学習基礎語2							2				
1083 <u>意味</u>	いみ	名詞/する動詞《他》	意識・思考/表現	いしき・しこう/ひょうげん	★学習基礎語2			2	3	5	7					
1090 <u>イモ/芋</u>	いも	名詞	植物/食品	しょくぶつ/しょくひん	★学習基礎語1		1		1	2						
1093 <u>妹</u>	いもうと	名詞	家族/人	かぞく/ひと	★学習基礎語2	2	1									
1122 <u>入り～入り</u>	いり	名詞/接尾辞			算数基礎語			2								
1124 <u>入り口</u>	いりぐち	名詞	場所/位置	ばしょ/いち	★学習基礎語2			2	1							
1151 <u>入れ物</u>	いれもの	名詞	《学校生活》	「がっこうせいかつ」	★学習基礎語2											
1156 <u>色</u>	いろ	名詞	色	いろ	★学習基礎語1	10	1	2	3	11	1					
1157 <u>色えんぴつ/鉛筆</u>	いろえんぴつ	名詞	《学校生活》	「がっこうせいかつ」	☆生活基礎語	1	1									
1176 <u>岩</u>	いわ	名詞	自然	しぜん	★学習基礎語2					1						
1208 <u>印刷</u>	いんさつ	名詞/する動詞《他》	《学校生活》	「がっこうせいかつ」	★学習基礎語2		1			3						
1220 <u>インターネット-Internet</u>	いんたーねっと	名詞	情報	じょうほう	★学習基礎語1		1	4	13	65	7					
1226 <u>インタビュー-interview</u>	いんたびゅー	名詞/する動詞《自}(他)	《社会活動》	《しゃかいかつどう》	★学習基礎語2		3	15	6	3						
1236 <u>引用</u>	いんよう	名詞/する動詞《他》	話す/書く	はなす/かく	国語基礎語											

図2 品詞の併記（名詞とそれ以外の品詞の場合）の例

5-2-2 意味グループ

意味に関しては、使用場面によるグループ化と語の持つ意味によるグループ化を行った。意味グループの大きな特徴は、「語彙学習に役立つ情報の記載」を重視したことにある。そのため、既存の語彙分類に従って語を分けていくというトップダウン的なグループ化ではなく、どのような語と一緒に学習できるかという観点から、一緒に学習できる語をまとめていくというボトムアップ的な方法を用いた。その上で、できあがったグループにどのようなグループ名を付けるかを検討した。グループ名は、既存の語彙分類を参考にしつつも、専門的な用語の使用は避け、どのような語が含まれるかが想像できるような、わかりやすいグループ名になるよう心掛けた。なお、上記のような目的で作り上げたグループのため、教科書基礎語すべてに意味グループの情報が付されているわけではない。

このように、意味グループの分類は既存の語彙分類とは分類の目的が異なっていることから、筆者ら研究グループで話し合って決定するという主観的な決定方法をとった。また、「意味」とは言えないが、「文法」とも異なり、国語科の中で「言葉のきまり」として学習し、児童にも支援者にも「グループ」として馴染みがあると思われる「こそあど」「ことわざ」「つなぎ」「オノマトペ」は、そのままの名称でグループ化することとした。なお、ここ

では「こそあど」「ことわざ」「つなぎ」「オノマトペ」の4つを便宜的に「既存のグループ」と呼ぶことにする。実際のWebでは、図3の意味グループの絞り込み画面で示すように、使用場面によるグループは《》、既存のグループは[]で括ることにして、他の意味グループとの性質の違いが区別できるようにした。

#	単語	読み	文法グループ	意味グループ	意味グループ(読み)	★基礎語★	1年 生活	2年 生活	3年 社会	4年 社会	5年 社会	6年 社会
221	鏡	あさがほん	名詞	《日常生活》	《にちじょう せいいかつ》	☆生活基礎語	3	1				
242	絆	あじ	名詞	味	あじ	★学習基礎語1		3		4		
279	絆	あじわう	動詞(他)	味/意識・思考	あじいしき・しこう	国語基礎語						
389	後かたづけ/後片付け	あとかたづけ	名詞	《日常生活》	《にちじょう せいいかつ》	☆生活基礎語	6	3				
730	生き生き	いきいき	動詞(他)	翻訳する動詞(自)	《オノマトペ》/様子	★学習基礎語2						
834	いす/椅子	いす	名詞	《日常生活》	《にちじょう せいいかつ》	★学習基礎語2		1	2	4		
870	板	いた	名詞	《日常生活》	《にちじょう せいいかつ》	★学習基礎語2					1	

[全て選択] [空文字列] [オノマトペ] [こそあど] [つなぎ] [学校生活] [社会活動] [日常生活] [挨拶] [味] [遊び] [争い] [安全]

図3 意味グループの絞り込み画面

5-2-2-1 使用場面によるグループ化

まず、使用場面によるグループ化の下位グループについて述べる。使用場面では、以下の3つのグループを設けた。

①日常生活：日常的に家庭にあるものやすること・日常的にもよく使う語・一般的には就学前でも知っている語を対象とするグループ

例) お箸, 買い物, スイッチ, タオル, 歯磨き, 早寝早起き

②学校生活：学校生活を送る中で（学校内で）必要なものやすること・主に教科学習でしか使われないもの・主に学校内で使い、一般的には就学前には知らないことが多い語を対象とするグループ

例) アルミニウム箔, 遠足, 学習の流れ, 決まり, 配る, クラス

③社会活動：家庭・学校内にあるものやすることではなく、家庭・学校外の一般社会において人や社会、組織がすること、社会の出来事や一般社会、そのルールについて説明したりするために必要な語を対象とするグループ

例) 開発, 観光, 暮らし, 貢献, 子育て, 支援, 消費, 110番

使用場面によるグループ化は、指導・支援対象の子どものバックグラウンドによって、語彙学習の必要な語を抽出できるようにするためのグループ化である。例えば、家庭言語が日本語でない子どもにとっては、「①日常生活」の重要性は高い。一方、「②学校生活」は、学校という文脈の中で学習または使用される語であり、学校生活を送る子どものにも重要な語と言える。そのため、①と②が区別できるようにした。

また、③の「社会活動」は家庭外、学校外の社会生活一般を営む上で必要となる語である。

②と同様に、就学後に学ばれる語であるが、学齢期の子どもにとっては自身が生活の中で経験するというよりは、社会で行われている活動として学ぶ対象であるため、「社会活動」とした。学校生活を離れても、使用される語だと考える。

一方、ブロック、ポスター、委員、協力など、学校生活と社会活動を併記しているものもある。これについては後述する。

5-2-2-2 意味によるグループ化

次に、意味によるグループ化について述べる。これは、ある語が出てきたときに、一緒に提示できる関連語がわかるようにということを目指して作成したものである。複合語の場合には、意味だけでなく、語構成要素にも着目して、グループ化している。ある語を学習するときに、同じグループの既出語（子どもが知っているであろう語）を思い出させる、その語に関連させて理解させる、形態的な共通点に着目させる、グループ内の未習語を先取り学習させるなどの語彙学習での活用を想定している。既習か未習かの判断には、教科や学年の情報が活用できる。今後、指導者や支援者と情報交換を行いつつ、適宜更新していく予定であるが、現時点では以下のようなグループが作られている。

あいさつ、味、遊び、争い、安全、意識／思考、位置、移動、色、動き、お金、重さ、回数、書く、家族、体、感覚、関係、感情、概数、楽器、聞く、キャラクター、疑問、行事、敬語、健康、行為、交通、行動、産業、仕事、自然、勝負、食品、植物、時間、授受、順序、状態、情報、人名、数量、スポーツ、図形、性質、建物、単位、題名、地名、抽象、概念、陳述、程度、動物、長さ、話す、範囲、場所、比較、否定、人、人の様子、表現、広さ、品種、複数、不定、物質、分類、変化、本、見る、様子、読む、料理、歴史

例えば、「味」というグループには、「味、味わう、おいしい」3語が、「移動」というグループには「出る、通る、届く、飛ぶ、流れる、上る」など28語がまとめられている⁽⁷⁾。

語彙学習という観点から、意味グループを作成した利点として、ここでは以下の4点を挙げる。

① 意味的な関連語（意味に繋がりがあると思われる語）がわかる

例) 「疑問」グループ 36語

いくつ、いつ、いつごろ、だれ、どう、どうして、どこ、どちら、どの、どのくらい、どのような、どのように、どれ、どれくらい、どれだけ、どんな、なぜ、何、何か、何色、何～、何円、何回、何個分、何時、何時間、何度、何日、何人、何倍、何本、何枚、何メートル、何リットル

例) 「図形」 グループ 36語

円, 同じ, 角, 拡大, 角度, 形, ~形, 三角, 三角形, 四角, 四角形, 水平, 図形, 正三角形, 正方形, 線, 底, 縦, 中心, 長方形, 頂点, 直線, 直角, 直径, 点, 二等辺三角形, 等分, 斜め, 幅, 半径, 等しい, ~方形, 細長い, 丸, 丸い, 面

例) 「時間」 グループ 111語

間, 秋, いつでも, 今, 今日, 先, その後, それから, ちょうど, ~分, 平成, 前, まだ, ~時間目, ~中, 正午, すぐ, 途中, 夏, 夏休みなど

このように意味的にまとめて示したい語を抽出できるようになっている。「疑問」 グループにはさまざまな単位との組み合わせがあり、「図形」 グループにはさまざまな図形の名称があるなど、教科学習と結びつけることが容易になる。また、学年情報を参照すれば、例えば、低学年では「同じ」が使われるが3年生以上になると「等しい」も使われるようになるなど、学年が上がるとどのような語が用いられるようになるかといった見通しを持つこともできる。「時間」 グループは、「今」「~分」のような、いかにも時間的な表現はもちろん、「夏休み」「~時間目」のような学校生活と結びつきの強い語を含んでいる。

② 品詞の異なる関連語がわかる

①の例からも同じグループに異なる品詞の語が含まれることがわかるが、「程度」「範囲」「関係」のようなグループでは、品詞の異なる語が同じグループにあることが、より意味を持つてくる。図4に「程度」の例を示す。

小学校教科書語彙リスト		単語+読み	部分一致	Q	選択解除	意味グループで絞り込...																
#	単語	読み	文法グループ	意味グループ	意味グループ(読み)	★基礎語★	1年 生活	2年 生活	3年 社会	4年 社会	5年 社会	6年 政府	6年 歴史	3年 理科	4年 理科	5年 理科	6年 理科	1年 算数	2年 算数	3年 算数	4年 算数	
129	重い	あかるい	い形容詞	程度	ていど	理科基礎語			1	1	1	2	25	24	5	19						
130	明るい	あかるい	名詞	程度	ていど	理科基礎語						1	15	17	1	2						
320	薄い	あかるい	名詞	程度	ていど	理科基礎語					3		20	28	1	1						
330	新しい	あかるい	い形容詞	程度	ていど	★学習基礎語1	8	1	6	23	24	10	54	5	8	3	16	1				
342	厚い	あづまい	い形容詞	程度	ていど	★学習基礎語2					1	2	1		1				6	4		
343	厚さ	あつさ	名詞	程度	ていど	算数基礎語													6	4		
470	あり	あります	副詞	程度	ていど	★学習基礎語2	1		1	4		1	5	13	6	5						
526	あたたか	あたたか	な形容詞	程度	ていど	★学習基礎語2			5	15	2	7	1	1	3	2						
1347	違う	うそい	い形容詞	程度	ていど	★学習基礎語1	3	1		1	2	1	2	2		6	33					
2051	大きい	おおきい	い形容詞	程度	ていど	★学習基礎語1	13	12	11	15	42	8	27	156	89	191	55	25	77	85	10	
2052	大きさ	おおきさ	名詞	程度	ていど	★学習基礎語1	9	3	9	3	10	7	102	38	41	34	2	65	66	1		
2055	大きな	おおきな	連体詞	程度	ていど	★学習基礎語1	3	2	37	31	56	23	54	13	5	10	13	5	25			
2315	大きい	おおきい	い形容詞	程度	ていど	★学習基礎語2						1		2					1			
2422	重い	おもい	い形容詞	程度	ていど	★学習基礎語1	2		4	2	1	8	99	10	66	81			85			
2424	重さ	おもさ	名詞	重さ/程度	おもさでいど	★学習基礎語1	1		3			2	95	9	58	63			76			
3664	軽い	かるい	い形容詞	程度	ていど	★学習基礎語1	4	1			2	2	3	8	5	6						
5010	くらいい	くらいい	副助詞	概数/程度	がいすう/くらいいど	★学習基礎語1	1	3	2	13	11	9	3	37	11	15	33	39	13			
5148	軽い	くわしい	い形容詞	程度	ていど	★学習基礎語1	2	13	11	4	5	1	1	10	19	11	11	1	1			
5655	違う	こい	い形容詞	程度	ていど	理科基礎語						1	1	3	1	2	3					
6401	重かい	こまかい	い形容詞	程度	ていど	★学習基礎語2			3	5	1	1	7	1	2	5						
8012	半分	じゅうぶん	な形容詞	数量/程度	すうりょう/くわいど	★学習基礎語2			3	3	8	1		1	1	2			7			
8199	小〜〜小	しょう	接頭辞/接尾辞	程度	ていど	★学習基礎語1	1	12	12	27	28	18	8			1	2			7		

図4 「程度」 のグループに属する基礎語 (一部)

図4は実際の画面の一部分であるが、「大きい」「大きさ」「大きな」や「重い」「重さ」

のように共通の語根を持つ語が同じグループの中にあり、類似のパターンを複数の語から見てとることができる。文法的な性質にも興味を持たせることが可能である。

③ 語種や語構成の異なる関連語がわかる

例) 「安全」 グループ : 35 語

安全, 懐中電灯, 火災, ガス, 危険, 緊急, 訓練, 警察, 災害, 災害時, 事故, 地震, 消火, 消防, 震災, 備える, 台風, 津波, 逃げる, 火, 被害, 非常, 避難, 避難所, 避難場所, 110番, ブザー, 無事, 防ぐ, 平和, 防災, 防犯, 防犯ブザー, 守る, 火傷

例) 「見る」 グループ 19 語

観察, 見学, 着目, 注目, 一眼, 見える, 見え方, 見せ合う, 見つかる, 見つける, 見つけ方, 見通し, 見直す, 見守る, 見る, 見方, 見渡す, 目をつける

和語, 漢語, カタカナ語など語種の異なるもの、「名詞+名詞」という組み合わせによる複合語だけでなく、複合動詞、名詞と接尾辞の組み合わせなど、さまざまな関連語が含まれている。また、教科ごとの頻度情報も参照できるので、例えば上に示した「見る」のグループの語である「観察」は理科で多く用いられるが、「見学」は社会で多く用いられ、「目をつける」は算数で多く用いられることがわかる。このように教科に関する情報も併せて活用することで、教科ごとの語彙の特徴も明らかになり、教科学習の一助にもなると考えられる。

④ 異なる観点からことばを捉えられる

意味グループにおいても、複数のグループが当てはまる場合は、グループ名を併記した。これにより、一つの語を異なる観点から見ることができる。グループ名の併記パターンを以下に示す。() 内に意味グループの名称を記した。

a. 場面グループ（学校生活と社会活動）の併記

例) ブロック, ポスター, 委員, 協力 (いずれも, 学校生活/社会活動)

b. 場面グループと意味グループの併記

例) うがい (日常生活/健康), 遅れる (学校生活/行為)

c. 意味グループの併記

例) 味わう (味/意識・思考) : 料理を味わう (味), 作品を味わう (意識・思考)

起きる (行為/変化) : 自分で起きる (行為), 地震が起きる (変化)

栄養 (健康/料理)

d. 既存のグループと他のグループの併記

例) あそこ (こそあど/場所)

例えば、a.の例に挙げた「ブロック」は、算数の授業など学校生活で使用するものであるが、一方で点字ブロックのように社会の中で使われるものもある。また、c.の例に挙げた「栄養」は「うがい、運動、身長、熱」などが含まれる「健康」グループの語でもあるが、「献立、調理、サラダ」などの「料理」グループの語でもある。

#	単語	読み	文法グループ	意味グループ	意味グループ(読み)	★基礎語★	1年 生活	2年 生活	3年 社会	4年 社会	5年 社会	6年 政国	6年 歴史	3年 理科
895	画める	いためる	動詞(他)	健康/変化	けんこう/へんか	理科基礎語			1			9		
1288	うがい	うがい	名詞/する動詞 (自)	《日常生活》 / 健康	「くちじょうせいかつ」/けんこう	☆生活基礎語	31	22						
1570	運動	うんどう	名詞/する動詞 (自)	《学校生活》 / 健康/スポーツ	「がっこうせいかつ」/けんこう こうきばつ	★学習基礎語1	1	1	2	1	28	3		
1617	尖端	えいよう	名詞	健康/料理	けんこう	国語基礎語			1	3	3	2		
1871	お寿司	おすし	名詞	料理	りょうり	☆生活基礎語	1	1						
3675	カレー-curry	かれー	名詞	料理	りょうり	★学習基礎語2			1					
5311	ケガ/怪我	けが	名詞/する動詞 (自)(他)	健康	けんこう	★学習基礎語1	4	4	2	2	2	1		
5471	健康	けんこう	名詞/な形容詞	健康	けんこう	★学習基礎語1	2	4	1	3	6	7		
6368	ごはん/ご飯/御飯	ごはん	名詞	料理	りょうり	★学習基礎語2			2		13			
6517	献立	こんだて	名詞	《学校生活》 / 料理	「がっこうせいかつ」/りょうり	★学習基礎語2			1		4			
5973	サラダ-salad	さらだ	名詞	料理	りょうり	★学習基礎語2					2			
8867	身長	しんちょう	名詞	体/健康	からだ/けんこう	算数基礎語								
1399	調理	ちょうり	名詞/する動詞 (他)	料理	りょうり	★学習基礎語2			3	1	1			

図5 意味グループが併記されている実際のリスト画面

上の図5は意味グループ「健康」と「料理」で絞り込んだ結果の実際の画面の一部であるが、「健康」「料理」以外の意味グループも併記されていることが確認できる。このように関連語を見ていくことで、語の意味の広がりにも目を向けることが可能になる。

6. おわりに

本研究で抽出した教科書基礎語は、どのような語をまず学んでおくかの指標となると考えられる。膨大なデータを基に、使用されている教科や学年を勘案して抽出した教科書基礎語であるが、各教科各学年について、それぞれ教科書1種類のみを対象とした分析である。また、本研究では教科書の用例を抽出することに加えて、新たに文法・意味のグループ化を行い、それらの情報を附加した。文法・意味のグループ化は、各語がどのように使われるかに関する情報を示すことを意図したものだが、すでに述べたように、主観的な方法に拠っている。よって、今後、他の教科書、他の資料との比較対照や分析を行い、本研究で抽出した教科書基礎語の位置付け、文法・意味グループ等の情報の有用性・妥当性を検証していく予定である。

ことばの世界を広げることは、学習や生活を支える基礎になる。本研究では文法・意味のグループ化において、教科書範囲外の使い方にも配慮して情報を附加しており、学習支援においてさまざまな活用の可能性を広げるものだと考えている。特に意味のグループ化

は「ことばを広げていく」ことに直結した手段となるが、それに併せて、教科や学年の頻度情報を活用することで、子どもに合わせた取捨選択が可能になる。短期的、教科学習の支援のみに役に立つ情報としてではなく、長期的な視点から子どもに合わせた支援を考えることができるような情報として提供している。

しかし、情報が有用であってもそれらへのアクセスが容易でなければ支援に活用することは難しい。そのため、本研究では、情報をどのように提示（実際に Web 上で表示）するかを検討し、指導者・支援者にとって使いやすい形になるよう心がけた。現時点では教科書基礎語の情報として教科、学年、頻度、用例、文法グループ、意味グループ等、多くの情報を提示している。これは、本リストを指導者・支援者の判断で取捨選択して活用するための基礎資料として考えているためである。ただし、子どものおされた学習環境や子どもの興味・関心によっては、指導者・支援者が支援対象の子どもとともに、あるいは子ども自身がリストを活用することも考えられる。その場合には、情報の取捨選択がより大きな課題となるだろう。また、指導者・支援者を対象にリスト活用に向けて国内外で開催したワークショップでは、現場に合わせた活用ができる基礎資料として有用だという声がある一方、活用方法の提案もあると使いやすいという声もあった。そのためにも、指導者・支援者との積極的な情報交換や具体的な実践を重ねていくことが重要である。今後もさらに学習支援におけるより有効な活用方法の検討を続けていきたい。

【謝辞】

本研究は JSPS 科研費 21K00635 の助成を受けたものです。システムの開発については、小林秀和氏の協力を得ました。また、査読者の先生方から多くの貴重なコメントをいただきました。深く感謝申し上げます。

【注】

- (1) これ以降、本稿で示す語数は、原稿執筆時点での最新のものとする。本リストでは、一般的な辞書の見出し語にならないような複合語も含めて教科書の語彙を抽出している。グループ等の付加情報の整備等研究の進展に伴って、見出し語を 1 つにまとめる（例：「～し合う」「～たち」）か、あるいは別語（例：「協力し合う、発表し合う」「私たち、子どもたち」）とするかといった判断にも影響が及び、語数等にも変更が生じる場合がある。そのため、公開している Web 版小学校教科書語彙リストでは、その時点での最新のリストを更新日とともに表示するようにしている。
- (2) 検索機能の詳細については、山本・川村・鷺見（2024a）を参照されたい。
- (3) 例えば理科基礎語の一つである「乾電池」は、「乾～」と「電池」から成る複合語であるが、「乾～」は単独で用いられることはなく、常に「乾電池」という複合語で用いられていたため、「乾～」は理科基礎語としては抽出していない。

- (4) 河内（2022）が「重要だが教科書にない」と指摘している語（表 53, pp.47-48）の中には、本研究の小学校教科書語彙リストに載っている語もある。したがって、分析に使用した教科書によって用いられている語が異なる可能性は十分にある。他の教科書のデータを加えた分析や他のリストとの対照によって、基礎語認定の精緻化をはかっていく必要があろう。
- (5) 表 4 の品詞の分類法は、後述するように筆者らが独自に行った分類に基づいている。そのため、複数の品詞に該当する語は、複数回カウントされている。例えば、「安全」は「名詞」としても「な形容詞」としても用いられるため、リストでは「名詞/な形容詞」のように該当する品詞を併記して示している。このような場合、「名詞」と「な形容詞」で各 1 回ずつカウントしている。そのため、表 4 では合計が語の総数より大きな数字となっている。
- (6) 教科書基礎語以外の語の用例は、今後、順次追加していく予定である。
- (7) ここで示した数字は、あくまでも教科書基礎語の中で各グループに該当する語の数である。現時点ではすべての語をグループ化しているわけではないため、語彙リスト全体を対象にすると各々のグループに属する語はより多くなる。

【引用文献】

- (1) 河内昭浩（2020）「小学校教科書語彙の研究」『群馬大学共同教育学部紀要 人文・社会科学編』、第 70 卷、39-49.
- (2) 河内昭浩（2022）「小学校教科書語彙の研究（2）」『群馬大学共同教育学部紀要 人文・社会科学編』、第 71 卷、39-49.
- (3) 工藤真由美（1999）『児童生徒に対する日本語教育のための基本語彙調査』ひつじ書房
- (4) 国立国語研究所（2004）『分類語彙表（増補改訂版）』大日本図書
- (5) 阪本一郎（1958）『教育基本語彙』牧書店
- (6) 田中祐輔（2020）「COSMOS-帰国・外国人児童のための JSL 国語教科書語彙シラバスデータベース」『計量国語学』32(5), 277-287.
- (7) 田中祐輔・森篤嗣・毛利田奈津子（2021）「帰国・外国人児童のための JSL 国語教科書語彙シラバスデータベース COSMOS の活用」『子どもの日本語教育研究』43, 31-42.
- (8) 辻井茉優・服部明子（2024）「外国人児童の理解支援に向けた国語科教科書の分析－「やさしい日本語」に着目して－」『三重大学教育学部研究紀要』75 卷、309-320.
- (9) バトラー後藤裕子（2011）『学習言語とは何か—教科学習に必要な言語能力－』三省堂
- (10) 宮部真由美（2015）「教科学習の日本語を知る－小学校理科教科書と社会科教科書の条件形を例として－」『文学部紀要』28-2, 19-38.
- (11) 宮部真由美（2023）「中学校社会科歴史教科書に用いられるショウトスル：過去のできごと文におけるショウトスルの分析」『鳴門教育大学研究紀要』38, 92-102.

- (12) 山本裕子・川村よし子・鷺見幸美 (2023) 「小学校教科書で用いられている単語と複合語の抽出-小学校教科書語彙リストの公開に向けて-」『2023年度日本語教育学会春季大会予稿集』, 290-294.
- (13) 山本裕子・川村よし子・鷺見幸美 (2024a) 「WEB版小学校教科書語彙リストの公開-学習支援での活用に向けて-」『日本語教育方法研究会誌』30-2, 10-111.
- (14) 山本裕子・川村よし子・鷺見幸美 (2024b) 「『教科書基礎語』の抽出-小学校教科書語彙リストをもとにして-」『2024年度日本語教育学会春季大会予稿集』, 222-227.

【教科書】

『どきどき わくわく あたらしいせいかつ 上・下』東京書籍 2020年

『新しい社会』(3年生~6年生) 東京書籍 2020年

『新しい理科』(3年生~6年生) 東京書籍 2020年

『わくわく算数』(1年生~6年生) 啓林館 2021年

『国語』(1年生~6年生) 光村図書 2020年

(山本裕子；愛知淑徳大学/鷺見幸美；名古屋大学/
川村よし子；チュウ太プロジェクト)